

- サルやシカによる農作物被害の増加を背景に、市や住民自治協議会が中心となり研修会を開催。集落点検の結果を踏まえ、集落単位で侵入防止柵の設置、追い払い、環境管理等の対策を住民主体で実施し、被害を軽減。
- さらに、ICTを用いたわなを導入してサルの個体群管理やシカの捕獲をするとともに、捕獲したサルには発信器を取り付け放獣し、群れの行動を把握、追い払いに活用することで効率的・安定的に被害を軽減。

伊賀市阿波地区の課題

- 平成20年頃に地区内で、サルやシカによる農作物被害が増加。
- 平成21年から獣害に強い集落を目指し、市や地元住民自治協議会が研修会を開催し農家以外も含めた地域の被害防止体制を構築。
- 集落住民により、平成24年に侵入防止柵を設置。これにより、被害額は大幅に軽減。一方で、集落周辺の有害鳥獣の密度は低下せず。
- 集落の高齢化が進展する中で、効果的な捕獲・管理を進めることが課題となっていた。

ICTを用いたわな等の導入

- 平成26年から市や県試験場と連携し、ICTを用いたわなを活用し、サルの群れの個体数管理、シカの捕獲を開始。
- ネットワークカメラによりわな周辺のライブ映像をスマートフォンなどで確認しながら捕獲が可能。
- 平成28年からは、映像をクラウド上のサーバーに蓄積し、関係者で情報を共有し、意思疎通を図りながら捕獲を実施。
- 捕獲したサルに発信器を取り付け放獣し、群れの行動を把握、追い払いに活用。集落周辺を主たる行動範囲とする群れについては、ICTわなで捕獲。

導入経費：罠いワナ本体約50万円/基
ICT関連機器約100万円/基
通信費等：約10,000円/月

取組の効果

- 群れの個体数が減るとともに、位置情報を把握できることでサルの追い払いが容易になるなど集落への出没がさらに減少。
- ICTを用いたわなの導入により関係者で役割を分担し、捕獲作業や追い払いの負担を軽減。

〈対策の効果〉

	平成22年	平成25年
被害箇所数	102箇所	21箇所
金額換算	820万円	32万円



ICTを用いたわな「クラウドまるみえホカクン」

今後の予定・課題

- ICT通信機器の通信料（年間約10万円/台）の経費負担が必要。
- 鳥獣の集落への出没、農作物被害が大幅に減ったため、地域住民の獣害対策に対する意識付けを継続する必要。
- ICTを用いたわなの維持管理を含む鳥獣被害対策の継続のため、地元住民、狩猟者、企業、研究機関を巻き込んだ団体（一般社団法人）の設立を検討。



子延集落で設置した多獣種防護柵「おじろ用心棒」

◆当時、三重県では県内の複数の地区に、獣害に強い集落を作るための働きかけを実施。

◆対策で先行する隣の下阿波集落の成功事例を踏まえ、子延集落でも粘り強く対策を継続。

きっかけ

阿波地区では、平成20年頃に地区内で、サルやシカによる農作物被害が増加

農家以外も含めた地域の被害防止体制を構築。

Step1 (H21)

研修会の開催

- 県や市、地元住民自治協議会が阿波地区内で研修会を開催。

Step3 (H22)

近隣集落の成功事例

- 下阿波集落では追い払いと侵入防止柵の設置により被害が激減。

隣接する子延集落などの集落ではサルの出没が増えるなど地区周辺の群れの行動が変化。

Step4 (H23)

子延集落の試行錯誤

- 子延集落でも緩衝帯の設置や追い払いを試みたものの被害低減に繋がらず。

鳥獣交付金を活用

集落の高齢化が進展するなかで、効果的な捕獲・管理をすすめることが課題となっていた。

Step5 (H24)

侵入防止柵の設置

- 子延集落を囲む形で侵入防止柵を設置。
- 環境管理や追い払いなどの対策と組み合わせたことで被害が減少。
一方で、集落周辺の有害鳥獣の密度は低下せず。

取組に当たっての秘訣

- 阿波地区の住民自治協議会が、集落間の利害調整や獣害対策に係る情報を地区内の集落に共有。
- ICTを用いたわなの管理、捕獲の体制は地元住民、狩猟者、市役所、県試験場などで役割を分担し、負担を軽減。

将来に向けて

- 鳥獣の集落への出没、農作物被害が大幅に減ったため、地域住民の獣害対策に対する意識付けを継続する必要。
- ICTわなの維持管理を含む鳥獣被害対策の継続のため、地元住民、狩猟者、企業、研究機関を巻き込んだ団体(一般社団法人)の設立を検討。

Step5 (H28～)

取組の効果

- サルの群れの個体数が減るとともに、位置情報を把握できることで群れの追い払いが容易に。
- ICTを用いたわなの導入により関係者で役割分担し、捕獲作業や追い払いの負担を軽減。

取組を経て…

Step6 (H26～)

ICTを用いたわなを導入

- サルの群れの個体数管理やシカを捕獲するためにICTを用いたわなを導入。
- 捕獲したサルに発信器を取り付け放獣し、群れの行動を把握。

